

調査概要

(1)本調査の目的

本調査は、大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るために実施しているものです。

また、市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立するためのものでもあります。

(2)調査の対象学年・学校・生徒数

(1月14日に調査を実施した学校・生徒数は以下のとおり)

中学校第1学年 門真市:6校 624人

(3)調査内容

(調査を実施した教科は以下のとおり)

中学校第1学年 国語・数学・英語

(4)大阪府公立高等学校入学者選抜への活用について

中学生チャレンジテストは、大阪府高校入試の調査書(内申書)の資料として活用されます。

調査結果の概要

【全体】

・国語、数学、英語の各教科において府平均を下回っており、府とは約7.7～10.5の得点差が見られます。

【異集団】

・令和6年度と同調査と比較すると、国語・数学・英語の3教科ともに府平均との差が広がりました。

○本市では、門真市版授業づくりベーシック(学習指導要領に基づいた授業改善)を推進しています。その成果を大阪府 平均正答率7割以上の問題において見図っており、本市においても同じく正答率7割以上をめざすということを一つの目標として取り組んでおります。その観点において、今回の結果は以下の通りでした。

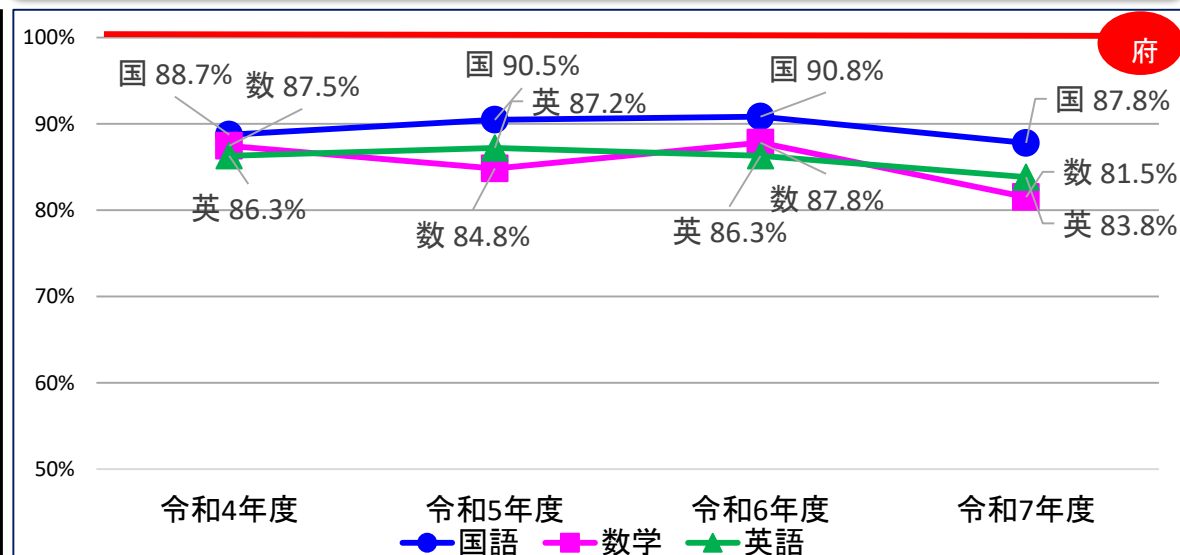
令和6年度 国語【全31問中】大阪府(10問)門真市(10問) 数学【全33問中】大阪府(6問) 門真市(4問) 英語【全39問中】大阪府(18問)門真市(8問)
令和7年度 国語【全32問中】大阪府(15問)門真市(9問) 数学【全33問中】大阪府(9問) 門真市(5問) 英語【全39問中】大阪府(21問)門真市(15問)
※ 今回お知らせする調査結果につきましては、学力や学習の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動等の全てを表すものではありません。

学年・教科別得点

平均得点

	令和6年度(1年生)		令和7年度(1年生)	
	門真市	大阪府	門真市	大阪府
国語	53.2	58.5	55.4	63.1
数学	43.8	49.8	46.2	56.7
英語	53.1	61.5	54.7	65.2

これまでの1年生(異集団)の経年比較



調査結果からわかる成果・課題と今後の取組みについて

【成果と課題について】

学習指導要領の定着を見とる指標として、府平均正答率が7割以上の問題について、本市においても同じく7割以上の達成をめざして取り組んでおります。今回の結果では、国語・数学・英語の3教科ともに未達成となりました。対府率を見ても、すべての教科で府平均の80～90%にとどまっており、課題があるといえます。

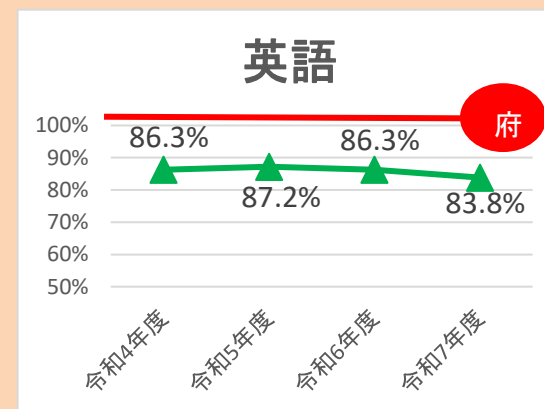
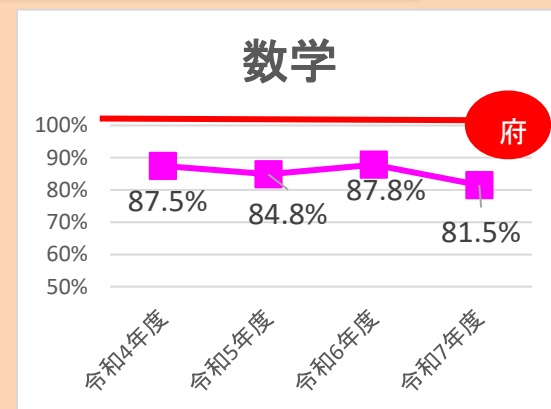
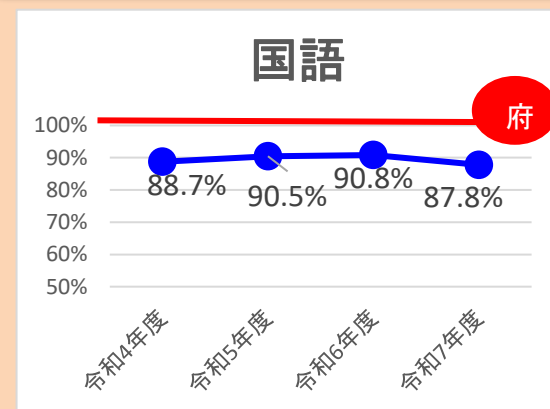
アンケート結果では、「授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面」「授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面」といった項目が向上しており、1人1台端末を活用した、他者と意見交換・交流のある授業が広がっていることがうかがえます。一方で、「家で自分の苦手なところ、必要としているところを考えて学習する」「普段(月曜日から日曜日)、1日平均どれくらいの時間、本(教科書を除く)を読むか」といった、主体的な学習習慣や読書習慣に関わる項目では、依然として課題が見られます。

【今後の取組について】

門真市教育委員会では、「令和の日本型学校教育」の実現に向け、教育委員会と学校が一体となって「子ども主体の学び」「探究的な学び」を柱とした授業改善に取り組んでいます。主体的・探究的な学びは、子どもが学習内容を深く理解し、確かな学力を身につける基盤であり、変化の激しい社会を自立して生き抜くために不可欠な力であると考えています。

アンケート項目では一定の成果が見られる一方、府平均正答率7割以上の到達という学力の定着面では、依然として課題が残っています。今後も授業改善を進める中で、学習指導要領に示された各教科の目標をこれまで以上に意識し、学力の着実な定着につながるよう、伴走チームや指導主事が定期的に学校を訪問し、授業づくりや校内研修を支援してまいります。引き続き、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

平均点における対府比較の経年変化(教科別)



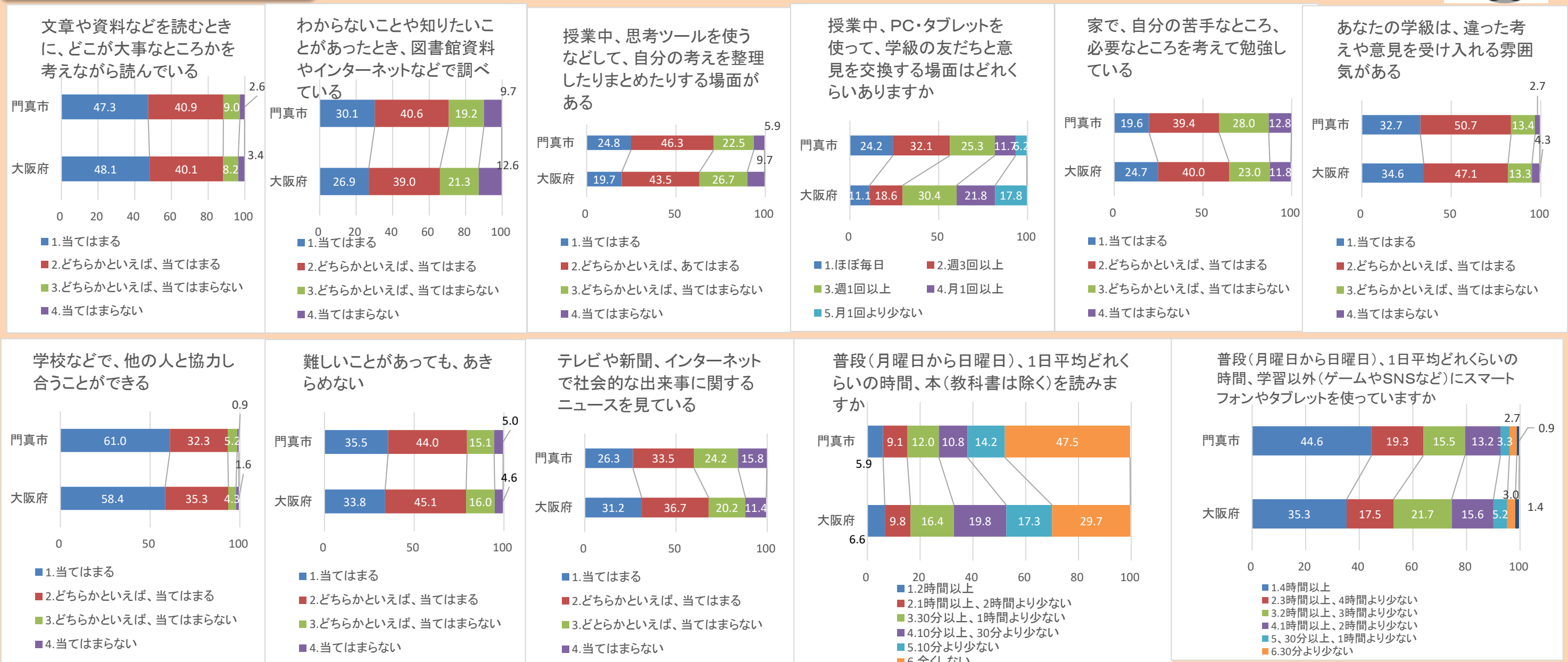
お願い

○今後も学校と門真市教育委員会が連携し、チャレンジテストの結果分析も行い、子どもの力をより良く育成できる授業改善及び学校教育環境の改善をさらに行ってまいります。

○保護者の皆様には、結果が返却される機会に、お家でもお子さまと、学習に関することに加え、スマートフォンやタブレットの活用など、生活習慣について、お話しする機会をつくっていただきますようお願い致します。



生徒アンケート(対府比較)



※ 無回答があるため、全ての数値を足しても、100%にはなりません。